

# 2026 年度事業計画

## 【2026(令和 8)年度 重点目標】

社会や保護者のニーズを再確認し、社会に貢献できるスカウトを育てる。

～より良き社会を創るために、地域社会においてリーダーシップを発揮できるスカウトを育てる～

ボーイスカウト茨城県連盟は、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟の中長期計画に準拠し、「活動的で自立したスカウトを育てる」ことを目指して活動してきた。また、県連盟創立 70 周年では「茨城県連盟の未来のための取り組み」が提言された。これらを受けて、2023 年度には「茨城県連盟中期計画（5 カ年計画）」を策定し、県連盟としてのビジョンを定め、それらに取り組んできた。

茨城県連盟においては 2025 年度の登録で、ビーバースカウト部門・カブスカウト部門でスカウト数が増加するなど一定の成果も見えてきた。しかし、日本連盟全体でみると毎年 3,000 名規模で登録人数が減少しており、スカウト運動を維持・発展させるのが困難になってきている。これは、社会の急速な変化や保護者が青少年団体に求めるものの変化、子どもたちを取り巻く環境の変化などに十分対応できていない結果ではないかと考える。スカウティングの本質は維持しつつ、社会の変化に対応した県連盟へと飛躍する必要がある。

そのためには、茨城県連盟では、2025 年度から進めている団・隊が中心の体制への変革をさらに推進し、地区・県連盟がそれを支える体制づくりを目指していく。

## 1. 基本方針

重点目標を達成するために、2023 年度に「茨城県連盟中期計画」を策定し、組織的・計画的に事業を開始した。この中期計画は、茨城県連盟で執行する全ての事業を網羅している。2026 年度は中期計画の枠組みを維持しつつ、これまでの成果を踏まえて修正を加えつつ活動していく。

### 【基本施策】

- 1 スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指す
- 2 全てのスカウトが楽しく・愉快地に活動できる団・隊活動を支援する
- 3 茨城県連盟をより活気ある組織にするため、組織・事業の見直しを推進する
- 4 多くの人に開（拓）かれたスカウティングを目指す
- 5 より良き指導者の育成に尽力する

## 1 スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指す

ビーバースカウトからローバースカウトまで、すべての部門でスカウトの発達段階に応じた魅力あるスカウティングを展開することで、スカウトの成長を促していく。そのために、団・隊の活動が適切に展開されるようコミッショナーを中心に地区・県連盟が支援する体制を確立する。ベンチャースカウトやローバースカウトの活躍の場を広げ、ボーイスカウト部門以下のスカウトや保護者に成長のイメージを提示する。

また、2026 年度は第 19 回日本スカウトジャンボリーが広島県神石高原町で、2027 年度には第 26 回世界スカウトジャンボリーがポーランドで開催されることから、その準備を進め、ボーイスカウト・ベンチャースカウトが大きく成長する機会を提供する。

## 2 全てのスカウトが楽しく・愉快地に活動できる団・隊活動を支援する

スカウトの活動の場は団・隊であることを再確認し、団・隊がスカウト教育法を活用しつつ楽しく、愉快的な活動が展開できるよう、県連盟と地区が支援する。少人数隊においては合同隊集会や合同キャンプなどにより班制教育などスカウト教育法が効果を発揮する場を作る。指導者にウッドバッジ実修所や研修所への参加を促し、企画力・実践力の向上を図る。

また、セーフ・フロム・ハーム研修を地区を中心に推進し、指導者のコンプライアンスに関する意識を高め、より安全・安心なスカウト活動を目指す。

### 3 茨城県連盟をより活気ある組織にするため、組織・事業の見直しを推進する

茨城県連盟をより活気ある組織にするには、隊・団・地区・県連盟のすべてにおいて、活発な意見交換や提案ができる組織作りを目指していく。また、理事会・各種委員会をはじめ、県連盟・地区が主催する各種事業に積極的に若手指導者やローバースカウトを登用し、組織の新陳代謝を推進する。

また、組織に対する外部の信用を高めるため、法人格の取得に向けた検討を開始する。

### 4 多くの人に開（拓）かれたスカウティングを目指す

スカウト運動の認知度を高め、この運動に多くの子どもたちが参加できるよう、ワクワク自然体験あそびやボーイスカウト体験、入団説明会などをすべての団が実施できるよう県連盟として支援を行っていく。ボーイスカウト運動に対する社会の理解を高めるため、あらゆる機会を利用して普及発展に努める。また、ホームページの整備など情報発信の強化を図る。

### 5 より良き指導者の育成に尽力する

日本連盟定型訓練であるボーイスカウト講習会、スカウトコース、課程別研修を開催するとともに、指導者の研修ニーズに基づいた研修計画を策定し、実施する。また、定型外訓練については、すべての地区で開設し、地区内の指導者を講師に登用するなど、トレーニングのすそ野を広げる場として活用する。さらに、トレーニングチームとコミッショナーの協働により、オンライン研修の研究を進め、時間・場所にとらわれず研修を受けられる体制の実現を目指す。

## II 本年度の取り組み ※IV-1-①などの数字は5ヵ年計画の事業番号（5ヵ年計画はHP参照）

### 1. 理事会

理事会は6つの基本施策が円滑に実施されるよう、各種委員会やコミッショナー、トレーニングチーム、事務局等の活動を精査し、相互に連携が取れるよう調整・指示・支援を行う。また、必要な資金を調達し、適切に配分することを目指す。

#### (1) 理事会への20代指導者の登用に向けた取り組み（II-3-②、IV-1-①、V-2-①、一般③、一般④）

- ・中期計画完了年度（2027年度）を経た2028年度の役員改選において、理事会における20代指導者が3名以上となるよう、県連盟規約に新たに「青年代表理事」を設け、ローバースカウトの育成と若手指導者の発掘・登用を進める。
- ・A I Sポリシーの研究を進め、地区において学習会を開催する。
- ・地区委員長会合を定例開催とし、県連盟と地区の報告・連絡・相談体制を強化し、人材の発掘を図る。

#### (2) 多くの人に開かれたスカウティングを目指す取り組み（I-2-①、一般②）

- ・ワクワク自然体験あそびを始めとするスカウト運動の理解促進を図り、加盟員獲得につながる活動に対して経費補助やグッズ提供などの支援を行う。
- ・高萩スカウトフィールドが所在する高萩市において高萩第2団の発団とその後の活動を支援する。
- ・県連盟ホームページを充実させるとともに、県内の全団がホームページ・SNSなど何らかのデジタル発信コンテンツをもつように支援する。
- ・茨城県連盟に対する外部の信用を高めるため、法人格の取得に向けた検討を開始する。
- ・2026年12月の登録者数1,400名（スカウト750名）を目指す。

#### (3) 財政基盤の確立（II-3-①、V-1-①、一般①、一般⑦）

- ・ボーイスカウト維持財団会員、日本連盟維持会員を増やし、安定した財源を増やす。
- ・県連盟の事業を精査し、必要な事業に予算を重点的に配分する。

#### (4) 第19回日本スカウトジャンボリー・第26回世界スカウトジャンボリーへの支援

- ・第19回日本スカウトジャンボリー、第26回世界スカウトジャンボリーにおいて、参加するスカウトの成長に寄与するよう、県連盟・地区が一体となって支援を行う。
- ・第19回日本スカウトジャンボリーにおいては県連盟派遣団を組織し、事前訓練や資器材の輸送、人員の輸送、現地でのサポートについての業務を行う。

## 2. 地区代表理事（地区委員長）

地区は県連盟理事会と連携し、地区内の団・隊が楽しく・愉快的な団・隊活動を展開できるよう支援を行う。また、スカウト運動の認知度を高め、この運動に多くの子どもたちが参加できるよう、ワクワク自然体験あそびやボーイスカウト体験、入団説明会などを団が実施できるよう必要な支援を行う。また、第19回日本スカウトジャンボリーの事前訓練等において、万全の態勢で本番が迎えられよう、人的・経済的な支援を行う。

- (1) 楽しく・愉快的な団・隊活動の支援（Ⅰ-2-②、Ⅵ-1-①、Ⅵ-1-②）
  - ・少人数の隊が増えている現状に鑑み、合同隊集会や合同キャンプなどの計画・実施を支援するとともに、地区行事やIBグランプリ地区大会等を開催し、団・隊間の交流を図る。
  - ・地区の団数が減少していることから、地区間の協働を促進する。
- (2) スカウティングの楽しさを広める取り組み（Ⅰ-2-③）
  - ・地区内のすべての団がワクワク自然体験あそびやボーイスカウト体験、入団説明会などの活動を年間1回以上実施できるように支援する。
- (3) 次世代の指導者を育成する取り組み（Ⅱ-3-②、Ⅳ-1-②）
  - ・地区内の指導者のニーズをもとに指導者研修を年1回以上実施するとともに、若手の指導者を講師として登用し、その育成を図る。
  - ・AISポリシーに準拠した団運営の見直しの必要性を理解し、各団の推進を支援する。
- (4) 第19回日本スカウトジャンボリー派遣隊に対する支援
  - ・派遣隊を構成する地区が、互いに協同し、指導者会議・事前訓練・スカウトジャンボリー期間を通して全面的な支援を行う。
  - ・第19回日本スカウトジャンボリー準備委員会、総務委員会、イベント国際委員会等と協働して、円滑な派遣の実施に努める。

## 3. 総務委員会

総務委員会は「茨城県連盟をより活気ある組織にするため、組織・事業の見直しを推進する」という基本施策に基づき、健全な県・地区・団運営や組織拡充に資する活動を行う。また、法人格（一般社団法人）取得に向けた取り組みの一翼を担う。

- (1) 茨城県連盟をより活気ある組織にする取り組み（Ⅰ-1-①、Ⅰ-2-⑤、Ⅱ-1-②、一般③、一般⑤、一般⑥）
  - ・県連盟総会時に団委員長懇談会を開催し、団が抱えている問題点を確認・共有するとともに、団を維持・拡充するための施策・情報発信・地域とのかかわり方などを話し合う。
  - ・コミッショナーと連携し、ビーバースカウトの入隊可能時期を検討する。
  - ・ボーイスカウト振興茨城議員連盟およびボーイスカウト茨城県連盟維持財団との連携を図り、ボーイスカウト運動の理解促進と普及を目指す。
- (2) 県連盟の組織・事業の見直しを推進する取り組み（Ⅱ-3-②、一般①、一般②、一般④、一般⑧、一般⑨）
  - ・茨城ローバースカウト協議会と協働し、災害復興支援活動への奉仕手続きのマニュアルを作成する。
  - ・県連盟規約および各種規程の見直しを検討する。
  - ・第19回日本スカウトジャンボリーの開催にあたり、参加隊へキャップ・チーフ・Tシャツなどを提供し、一体感の醸成とモチベーションの向上を図る。
  - ・団委員長懇談会や団委員長のための講演会に外部講師を招聘し、拓かれたスカウティングを目指す。

## 4. 地域連携・広報委員会

県連盟の基本施策の一つである「多くの人に開(拓)かれたスカウティングを目指す」や「スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指す」を中心に、スカウティングの楽しさと魅力をスカウトや保護者のみならず、地域の人々や子供達に広く知って貰う事を目標として、団・地区におけるワクワク自然体験あそびや募集活動、地域に連携した事業を支援すると共に、その取り組みを広報活動を通して県内で共有し、一層の充実と活性化を支援する。

- (1) 地域連携の推進（Ⅰ-2-①、Ⅰ-2-④、Ⅱ-1-④）、一般⑥、一般⑦、一般⑧）
  - ・他団体・地域と連携したプログラムの展開として、全国防災キャラバン（1回/年）を実施するほか、高萩スカウトフィールドを活用した事業等に参画・協力する。
  - ・地域奉仕活動への積極的な参加の奨励や地域行事・お祭りへのコラボや奉仕を促進するため「SC-IB NEWSLETTER」による情報共有、広報を行う。
- (2) プロジェクト展開の支援（Ⅰ-2-③、Ⅱ-1-②、Ⅱ-1-④、一般③、一般④、一般⑤）
  - ・「SC-IB NEWSLETTER」による「スカウトの日」の呼びかけ、情報共有を行う。
  - ・撮っておきの写真コンテスト・カレンダープロジェクトによる活動状況の共有を行う。
  - ・ワクワク自然体験あそびや募集活動の推進とノウハウの共有を図る。
  - ・茨城ローバースカウト協議会と連携し、全国防災キャラバン等でローバースカウトの活動の姿を地域の保護者・子どもたちに示す。
- (3) 県連盟機関紙「SC-IB NEWSLETTER」、広報紙「SCOUTING 茨城」の発行（一般②、Ⅰ-1-②、Ⅰ-2-⑤、Ⅱ-2-②）
  - ・指導者向けのみならず、スカウトや保護者へスカウティングの魅力を伝え、楽しさを共有する。
  - ・県連盟機関紙「SC-IB NEWSLETTER」の発行（隔月）。
  - ・地域への発信としての県連盟広報紙「SCOUTING 茨城」の発行（2回/年）。

## 5. 指導者養成委員会

指導者のニーズに応えるために、本当に求めている研修を目指し丁寧に細かなニーズの把握を行う。参加者の意欲を引き出すための告知方法、時期設定など、コミッショナー、トレーニングチームと共同で考えていく。そして参加者増加、満足いただける研修を目指していく。指導者養成委員会は下記各研修の開催通知、運営を滞りなく行う。（Ⅳ-2-①、Ⅵ-1-①、Ⅵ-1-②、一般①）

- (1) 日本連盟定型訓練
  - ・ウッドバッジ研修所課程別研修の開催 1回 参加者各5名以上を目標とする。
  - ・ボーイスカウト講習会の開催 4回 各20名以上を目指す。
  - \*今年度のウッドバッジ研修所スカウトコースは3県連盟合同で開催（群馬県開設）
- (2) 県定型訓練
  - ・安全危機管理研修基本・STEP1・STEP2 各1回 参加者10名以上を目標とする。
  - ・WB研修所スカウトコースを100%楽しむ研修 1回 参加者10名以上を目標とする。
- (3) 県定型外訓練
  - ・スカウティング+セミナー「DL研究会」 参加者15名以上を目標とする。
  - ・スキルアップセミナー「ソング&ゲーム」 参加者15名以上を目標とする。
  - ・各地区開設訓練

## 6. 進歩委員会

多くの人に開かれたスカウティングを目指し、全てのスカウトが楽しく・愉快地活動できる団・隊活動を支援するという県連盟の基本施策に基づき、進歩状況管理と推進、スカウトに対する救急法、看護法の研修及びグリーンバー訓練の実施、正しい考査及び面接、記章の申請と交付について発信していく。

- (1) 進歩状況の適切な管理と、菊章・隼章・富士章への進級の推進、BVS・CS部門からの上進率の向上（Ⅲ-1-②、一般①）
  - ・地区コミッショナーと連携し、菊章・隼章・富士章を目指すスカウトの意識の向上を図り、BVS・CS部門からの上進率を高めるプログラムを検討する。
- (2) 救急法講習、GBのつどいの開催（一般①、一般②、一般④）
  - ・すべての指導者・スカウトが救急法をマスターするという県連盟の指針に基づき、救急法講習を開催する（2回）。参加者数目標 20名/回。
  - ・地区における救急法上級講習の開催を支援する。
  - ・GBのつどいを開催し、GBとなるスカウトのモチベーションの向上を図る。
- (3) 「進歩制度 ～その理解と活用のために～」の活用（Ⅲ-1-②）
  - ・隊指導者に進歩制度の理解促進を図る。
  - ・団面接、地区面接等を通じて、スカウト・保護者にこの運動の目指すところを理解してもらう。

- ・進級面接が適切に実施されるよう、資料を作成する。
- ・技能章修得のための環境を整備する

## 7. イベント国際委員会

イベント国際委員会は、スカウトの成長・社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指すという県連盟の基本施策に基づき、下記の活動を通して団・地区を支援していく。

- (1) 様々な団体や地域と連携したプログラム (Ⅰ-2-①) (Ⅲ-1-④) (Ⅲ-2-②)
  - ・老人福祉施設などへの慰問活動の推進。
  - ・市町村などで行っている在日外国人のための講座のようなものへの奉仕を推進。

上記の活動支援のため県や市町村の窓口を調査して各団へ情報提供する。
- (2) 国際感覚を養うプログラムの整備 (Ⅲ-1-④)
  - ・実際に外国の団と交流している団 (水戸第 1 団と台湾・台北 40 団) の活動を県連盟全体に展開できないか検討する。
  - ・イングリッシュシャワーキャンプの再開を検討する。
  - ・J O T A / J O T I の活動を周知し、参加しやすい方法などを紹介する。
  - ・第 26 回世界スカウトジャンボリーへの派遣の支援を行う
- (3) 環境活動、社会貢献活動、SDGs プログラムの推進 (Ⅲ-2-②)
  - ・おにぎり大作戦やフードバンク、古着の寄付、ヘアドネーション等を実施している団のノウハウを紹介して展開を図る。
- (4) スカウトにとって魅力あるスカウティングの実現を目指すイベントの開催 (Ⅱ-2-③ 一般② 一般③ 一般④)
  - ・ベンチャーフォーラムの開催
  - ・I B グランプリ 2026 県大会の開催  
地区大会のエントリー合計で B クラス 100 台 C クラス 230 台 A クラス 55 台を目指す。
  - ・ベンチャーラリーの開催  
ベンチャースカウトで実行委員会を組織し自発的な活動を展開する。  
ベンチャースカウトの参加 20 人を目指す。
  - ・県内各団の交流を図るため、各団の野営場の場所の地図などを作成して紹介する。
- (5) 日日の善行の推進 (一般⑤)
  - ・日日の善行の推進のため、県連盟機関紙「SC-IB NEWSLETTER」を活用して啓発活動を実施する。

## 8. 信仰奨励専門委員会

信仰奨励専門委員会では、すべてのスカウト・指導者が信仰心を育むことを目指し、信仰を深める活動を支援していく。

- (1) スカウトが信仰を深める活動を奨励する
  - ・指導者に向け発行した『スカウトに信仰を奨励する指導者のためのガイド』の有効な活用を推進・奨励する。
  - ・スカウトに信仰を奨励する指導者を支援する。
- (2) 信仰に関するプログラム実施の奨励と支援
  - ・『信仰奨励章』『宗教章』の取得を推進・支援する。
  - ・「宗教章取得協力宗教法人」との連携を深めるため、交流懇談会の開催も検討する。
  - ・「宗教章取得協力宗教法人」の情報(異動変更等)を調査・更新する。
- (3) 『宗教章』取得のための講習会を検討し、開催する。

## 9. 県コミッショナーグループ

スカウティングの本質を維持しつつ、社会の変化に対応していくという県連盟の基本施策に基づき、団・隊が中心の体制へ変革するとともに、それを支える体制づくりを実施していく。

- (1) スカウティングを正しく理解した魅力&実力のある指導者の育成のための研修の研究 (Ⅰ-2-②)
  - ・昨年実施した指導者ニーズに沿った定型外訓練において、実施結果を評価分析し、魅力ある指

導者研修を実施する。トレーニングチームと共同して実施していく。

- (2) 保護者層へスカウティングの魅力を伝える手法の確立（Ⅰ-2-⑤）
  - ・保護者が「仲間」として関わりたくなると考える魅力を伝える媒体と方法を調査し実現する。地域連携・広報委員会と検討を進めていく。
- (3) 団・隊組織の正常化と、団・隊指導者の資質の向上（Ⅱ-1-①）
  - ・A I Sポリシーを具現化するために実施すべき具体的な施策を提示し、発生した課題について分析および評価する。
- (4) 年代特性に合致した一貫性のあるプログラム開発と整備（Ⅲ-1-①）
  - ・第19回日本スカウトジャンボリーの派遣隊に対し、安全かつ効果的な活動ができるよう支援を行う。
- (5) プログラムのヒント・データベースの構築（Ⅲ-3-②）
  - ・プログラムヒント展開後の状況および課題を確認するとともに、過去収集したプログラムヒントの公開を実施する。
- (6) インサービスマサポートの適切な運用（Ⅳ-1-②）
  - ・インサービスマサポート運営のための勉強会を実施し、指導者に対しこちらから寄り添ったサポートを行い、サポート結果をまとめ必要に応じて研修体系に盛り込む。
- (7) 時代に即した指導者研修の研究と実施（Ⅳ-2-①）
  - ・I C Tを利用した研修の特性を研究し、必要技術を整理し環境構築を行う。トレーニングチームと共同して研究していく。
- (8) 指導者が参加したいと思う各種訓練の研究・計画と、参加意識の高揚（一般④）
  - ・指導者に魅力的な活動が体験できる指導者のつどいを開催し、スカウト運動の楽しさを理解し、参加意欲の向上を図る。トレーニングチームと共同して計画を推進する。

## 10. 地区コミッショナーグループ

全てのスカウトが楽しく・愉快地に活動できる団・隊活動を支援するという県連盟の施策に基づき地区内のスカウト活動が円滑に展開されるよう団・隊指導者に対して支援を行う。また、団・隊指導者の成長を助ける研修の場とインサービスマサポートを提供する。

- (1) 楽しく・愉快的な団・隊活動の支援（Ⅰ-2-②、Ⅲ-1-①、Ⅲ-1-②）
  - ・ラウンドテーブルにて魅力的な活動を研究し、各隊の取り組みを支援する。
  - ・スカウトが少ない隊において、近隣隊からの支援を得られるよう働きかける。
  - ・進歩制度の理解を促進し、菊章・隼章・富士章を目指すスカウトの意識の向上を図る。
- (2) より良い指導者の育成のための研修とインサービスマサポートの提供（Ⅳ-1-②、一般⑤、一般⑧）
  - ・団訪問を行い、活動および運営の支援を実施する
  - ・A I Sポリシーを周知し、団における実施を支援する。
  - ・指導者研修ニーズを把握し、地区トレーニングチームと連携した研修を開催する。
  - ・若手指導者を研修講師等に登用し、その育成を図る。

## 11. トレーニングチーム

より良き指導者の育成に尽力するという県連盟の基本施策に基づき、コミッショナーの指導のもと、日本連盟定型訓練及び県連盟の指導者研修のプログラム開発と実施を担当する。また、時代の変化に合わせた研修方法の研究を進める。

- (1) 指導者が参加したいと思う各種訓練の研究と計画・実施（Ⅳ-2-②、一般①、一般②）
  - ・日本連盟リーダートレーナーが中心となって研修の目的・目標を確立し、指導者が参加したいと思ひ、他の指導者に参加を勧めたい研修となるよう研究を進める。
  - ・研究をもとに研修を計画し実施する。
- (2) 時代の変化に合わせた研修方法の研究（Ⅳ-2-①、Ⅳ-2-②、一般①、）
  - ・研修のオンライン化に伴う研修方法を研究する。
- (3) トレーニングチーム員の養成と資質の向上（一般④、一般⑤、一般⑥）
  - ・地区が主催する研修において、若手指導者を講師として登用し、将来のトレーニングチーム員として養成する。
  - ・トレーニングチーム員の資質及び意識を向上させるための取り組みを推進する。

- ・トレーニングチーム研究集会を年3回、ワークショップを年1回開催し、トレーニングチーム員の資質向上を図る。

## 12. ローバースカウト協議会

ローバースカウトの仲間が積極的に交流を持つことにより、継続的なローバースカウト協議会の運営を見据え、茨城県のローバースカウト活動の更なる活性化を図る。また、他部門（ボーイスカウト隊、ベンチャースカウト隊など）にローバースカウトの活躍している姿を示し、各部門のスカウトのモチベーションアップにつなげる。

- (1) 積極的にローバースカウトに対して参画を促し、年度末には積極的に実働するスカウトの拡充を図る。（Ⅲ-2-②）
  - ・茨城ローバースカウト協議会の記章の着用を推進し、帰属意識を高揚する。
  - ・被災地ボランティア年間プロジェクトを実施する。
  - ・富士山登山を実施する。
  - ・ローバースカウトスタートセミナーを実施する。
  - ・茨ロー会（茨城ローバースカウト協議会の略称）交流キャンプを2回実施する。
- (2) 県連盟主催の事業に対して奉仕を行い、延べ15名以上の奉仕実績を達成する。（Ⅰ-2-⑤、一般①）
  - ・IBグランプリ、GBのつどい、ベンチャーラリー、防災キャラバン等への奉仕を行う。
- (3) ベンチャースカウトやボーイスカウトとの縦のつながりを深め、茨城県連盟全体の活性化をめざす。（Ⅰ-2-⑤、一般①）
  - ・GBのつどいの計画・運営に参画する。
  - ・ベンチャーラリーの支援を行う。

## 13. 事務局

2025年度に引き続き、ICTの活用および事務手続きの簡素化を推進し、事務の効率化を図る。また、理事長を補佐し、茨城県、高萩市、ボーイスカウト振興茨城議員連盟、全国共済農業協同組合連合会茨城県支部、ロータリークラブ第2820地区、ボーイスカウト茨城県連盟維持財団など、外部団体との連携を円滑に進める。

- (1) 事務の効率化（Ⅴ-1-①、一般①、一般②、一般③、一般④）
  - ・事務局業務の適正化を図り、県連ルールの再確認を行う。
  - ・メール運用の適正化（受信メールの確認、分類・保管、添付ファイルの確認など）を徹底する。
  - ・資材保管の適正化および物品の整理整頓を進める。
  - ・ホームページの運営管理を適切に行う。
- (2) 県連盟事業の円滑な執行を支える取り組み（Ⅰ-2-③、一般②）
  - ・地域の青少年に体験活動を提供する団の活動を支援する。
  - ・各委員会が実施する県連盟事業の運営を支援する。
- (3) 外部団体等との連携強化（一般⑥）
  - ・外部団体との連携を強化し、協働体制を円滑に進める。